

ふくやま美術館友の会では、美術館をもっと楽しみたい方のために、ミュージアム・パスポート会員を募集しています。当美術館の所蔵品展がフリーパスになるほか、いち早く情報入手できる催し物案内の送付、ショップやカフェでの割引など、さらに美術館を身近に楽しんでいただける特典がいっぱいです。

- 年会費 一般会員 3,000円 / 学生会員 1,500円 / 特別会員 10,000円
- 特典 所蔵品展及び特別展無料鑑賞（※会員ごとに無料回数が異なりますが、例えば一般会員の方は特別展が年4回無料になります。）美術館に関する情報提供、当館ミュージアムショップやカフェの割引、提携する美術館観覧料の割引など。
- お問合せ ふくやま美術館友の会事務局 084-932-2345



インフォメーション

山陽自動車道福山東インターから車で20分

◎ふくやま美術館（JR福山駅北口から西へ400m）

〒720-0067 広島県福山市西町二丁目4番3号

電話 084-932-2345 FAX 084-932-2347

URL : <http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/>

駐車場：68台（特別展・所蔵品展のお客様は1時間無料）

□休館日：月曜日（祝休日の場合開館、その翌日休館）・年末年始

□開館時間：午前9時30分～午後5時（特別展開催中は、夜間開館あり）

□観覧料：所蔵品展／一般300円（240円）※（ ）内は20名以上の団体料金

※特別展の観覧料は別に定めます。※特別展・所蔵品展ともに高校生以下無料

ふくやま美術館の所蔵品展をご覧ください。ふくやま書道美術館 [所蔵品展] もご覧いただけます。

◎ふくやま書道美術館（JR福山駅南口から西へ約600m）

〒720-0067 広島県福山市西町一丁目1番1号 エフビコRIM8階

電話 084-925-9222 FAX 084-925-9223

URL : <http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-syodo/>

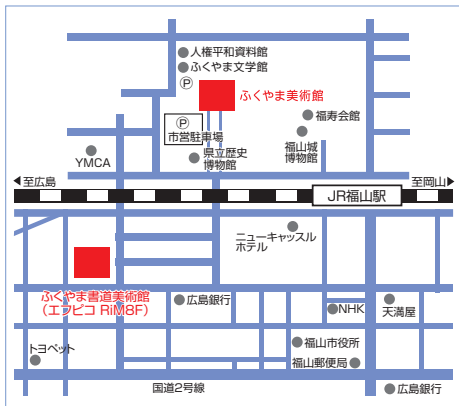
駐車場：エフビコRIM第1、第2、第3駐車場（特別展、所蔵品展のお客様は2時間半無料）

□休館日：月曜日（祝休日の場合開館、その翌日休館）・年末年始

□開館時間：午前10時～午後7時

□観覧料：所蔵品展／一般150円（120円）※（ ）内は20名以上の団体料金

※特別展の観覧料は別に定めます。 ※特別展・所蔵品展ともに高校生以下無料



所蔵品展

春季所蔵品展  
「梅原龍三郎とその周辺」

4月8日[水]  
-6月21日[日]

大正・昭和の美術界に大きな足跡を残した梅原龍三郎(1888-1986)の作品を中心に彼と交流のあった安井曾太郎、岸田劉生、中川一政、熊谷守一、小林和作の作品など戦前・戦後の日本の美術界の動きを紹介します。



梅原龍三郎「仙酔島の朝」



中野恵祥「休む蛙」

夏季所蔵品展  
「中野恵祥：  
板金に生命をふきこんで」

6月24日[水]  
-9月13日[日]

板金という身近な素材から、蛙やカマキリ、牛などの姿をモダンな造形感覚と、どこかユーモラスな写実性をもって、巧みに生み出していった金工作家・中野恵祥(1899-1974)を特集します。この他動物をテーマとした絵画も展示します。

秋季所蔵品展  
「緒方亮平の世界」

9月16日[水]  
-11月29日[日]

福山市鞆町出身の緒方亮平(1901-1979)は、大正から昭和にかけて日展、光風会など中央の画壇で活躍した画家です。ご遺族より新たに受贈した作品ならびに、市内所蔵の代表作により、その画業の足跡をたどります。



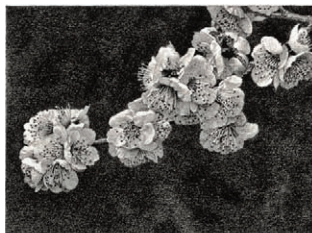
緒方亮平「南の室」

冬季所蔵品展  
「野田弘志  
細密なる挿絵原画の世界」

12月9日[水]  
-2016年4月3日[日]

前期 12月9日(水)～1月17日(日)  
後期 1月20日(水)～4月3日(日)

現代日本を代表する写実絵画の巨匠・野田弘志(1936-)。西欧古典絵画の写実に学んだ油彩画のほか、鉛筆画による新聞連載小説の挿絵も数多く手掛けています。繊細かつ濃密な、その挿絵原画の世界を紹介します。



野田弘志「梅の花」当館寄託

2015 2015 2015  
ふくやま美術館  
FUKUYAMA MUSEUM OF ART  
展覧会カレンダー



小林徳三郎「花と少年」(部分) 1931年



# 視覚のトリック 光る? 動く!

## キネティック・アート展

### 4月11日[土] - 6月14日[日]

月曜休館 ※5月4日(月)、7日(木)は開館  
 開館時間 午前9時30分～午後5時  
 ※6月5日(金)、6日(土)、12日(金)、13日(土)は午後7時まで開館  
 観覧料 一般1,000円(800円) 高校生以下無料( )内は前売りまたは20名以上の団体料金

キネティック・アートとは、作品そのものが機械仕掛けで動いたり、発光したり、あるいは、目の錯覚を起こさせたりするアートのことです。モーターや電球を用いたもの、光を反射させる金属やガラスを用いたもの、あるいは複数の重ねた縞模様がずれて波紋が動き出す「モアレ」効果を利用したものなど、さまざまな手法が見られますが、どの作品も私たちの目に刺激を与え、視覚にトリックをかけようと狙っているかのようです。本展は、1960年代のイタリアを中心としたヨーロッパの作家たちのキネティック・アートを紹介するもので、イタリアから日本に初上陸する作品ばかりです。子どもから大人まで楽しめる、'体感型アート'の展覧会です。



フランコ・グリニャーニ  
 《波の接合 33》1965年

# 岩合光昭写真展 「ねこ歩き」

## 7月11日[土] - 9月13日[日]

月曜休館 ※7月20日(月)は開館、7月21日(火)は休館  
 開館時間 午前9時30分～午後5時  
 ※9月4日(金)、5日(土)、11日(金)、12日(土)は午後7時まで開館  
 観覧料 一般1,000円(800円) 高校生以下無料( )内は前売りまたは20名以上の団体料金

世界で活躍する動物写真家・岩合光昭(1950-)は、野生動物の撮影と並行してネコもライフワークとして40年以上、日本はもとより世界各地のネコを撮り続けています。岩合氏は、野生動物と異なり、ヒトと身近な存在であるネコについて、「ネコの動きをみれば、ヒトの動きがみえてくる」と語ります。本展は、岩合氏が近年訪れたギリシャやイタリアといった世界のネコをはじめ、日本各地のネコ、そして岩合氏自身に一番身近な岩合家のネコたちなど傑作写真約160点を展示し、ネコたちとの出会いの旅をご覧いただくものです。



《ギリシャ・ミコノス島》©Mitsuaki Iwago

### 教育普及事業

#### ◎第45回世界児童画展

7月31日[金] - 8月9日[日]

世界の児童画と国内・県内の児童・生徒の優秀作品を展示します。

#### ◎第7回ふくやま子ども「生きる」美術展

2016年1月2日[土] - 1月11日[月・祝]

児童・生徒のそれぞれの「生きる」をテーマとして個性豊かに描いた作品の中から、受賞作品を展示します。



#### \*スクール・プログラム\*

小中学生対象のプログラムを行っております。

【対話型の鑑賞】クラス単位にわかれ、学芸員やボランティアが先生と連携し、児童・生徒の発言を引き出しながらの鑑賞します。

【説明型の鑑賞】学芸員やボランティアが、クラス単位に作品や作家、技法について説明します。

お問合せ：ふくやま美術館 084-932-2345 (火～日の午前8時30分～午後5時)

# 刈谷市美術館コレクション

## 井上洋介 絵本の世界

### 『くまの子ウーフ』もやってくる!

### 2016年1月23日[土] - 3月21日[月・祝]

月曜休館 ※3月21日(月)は開館  
 開館時間 午前9時30分～午後5時  
 観覧料 一般1,000円(800円) 高校生以下無料( )内は前売りまたは20名以上の団体料金

井上洋介(1931-)は、人気の童話『くまの子ウーフ』(神沢利子作)シリーズの挿絵を1969年から手がけてきたことで知られています。この展覧会は、漫画家、画家、イラストレーターとして活躍する井上の絵本の世界に焦点をあてるものです。井上は、武蔵野美術学校在学中より、長新太らに漫画家としての才能を高く評価されてきました。井上の描く絵本や挿絵は、漫画家としての独壇場ともいえるユーモアとナンセンスを根底に作家独特の奇想天外な発想にあふれ、大人の感性をも刺激するものであります。

本展はその初期から近作にいたる絵本の原画を展示、絵本作家としての井上洋介の魅力の源にせまります。



井上洋介 《くまの子ウーフ》  
 刈谷市美術館所蔵

# 福山市市制施行100周年記念協賛

## ピカソ展

### 誰でもわかる天才の名画

### 9月19日[土] - 11月23日[月・祝]

月曜休館 ※9月21日(月)、24日(木)、10月12日(月)、11月2日(月)、23日(月)は開館、10月13日(火)は休館  
 開館時間 午前9時30分～午後5時  
 ※11月13日(金)、14日(土)、20日(金)、21日(土)は午後7時まで開館  
 観覧料 一般1,000円(800円) 高校生以下無料( )内は前売りまたは20名以上の団体料金



パブロ・ピカソ《女の顔》1943年 鹿児島市立美術館所蔵  
 ©2015-Succession Pablo Picasso-SPDA (JAPAN)

誰もがその名を知る天才画家、パブロ・ピカソ(1881-1973)。スペイン、マラガに生まれた彼は、パルセロナなどの美術学校で伝統的な絵画技法を習得。わずか16歳の時に《科学と慈愛》で受賞します。1901年頃、パリに出ると叙情的な「青の時代」がはじまり、1907年、《アヴィニヨンの娘たち》を制作し、革新的なキュビズムで世界を眩目させます。かと思えば、新古典主義、あるいはシュルレアリスムを取り入れた作品を描くなど、つねに自己の画風を刷新しながら、人生や社会を見つめて旺盛に制作を続け、戦争の悲劇を主題とした大作《ゲルニカ》のような人々の記憶に残る作品を残しました。

本展では、はじめてこの巨匠の作品を鑑賞する方にも理解しやすいように、その作品を、初期から晩年まで「1 青の時代、2 キュビズムと静物画、3 家族への愛、4 男と女のいる風景、5 スペイン賛歌」の5つのテーマに分けて構成するものです。国内の主要な美術館などから集まった約90点を展示します。